

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家(さくら棟)		
所在地	奥州市江刺区田原字大日195-1		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0371200387-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広大な敷地を利用して、畑づくりをし、それを食材として利用したり、焼き芋大会をしたりと、自然に恵まれた環境をフルに活用させていただいています。毎月写真入りの花だよりに近況報告やら、次月の予定を記入して分かりやすい内容にして、ご家族に報告しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム花の家」は、自然豊かな旧江刺市の田原地区に立地し、悠々と散歩ができる敷地と建物内には広いホールがあり、全体的に広くゆったりとした事業所となっている。経営者の運営理念の徹底ほか、災害対策はスプリンクラー、緊急通報装置が導入され、火元はオール電化になっている。近く太陽光発電装置導入の計画もあり、ソフト面でも、避難訓練は日中だけでなく、消防団長のアドバイスを取り入れた夜間想定訓練も実施している。「花だより」を用いた、利用者や家族とのきめ細かい連絡方法があり、安心して事業所に託すことができる仕組みとなっている。また、千貫石温泉の湯を用いた入浴ができ、利用者から好評を得ている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」と理念を策定し、ホーム内に掲示し実践につなげている。	法人の理念のほか、職員全員で当ホームの独自理念を作成している。今年も昨年と同様の理念を継続することとし、玄関の壁に掲示して、周知徹底を図り、日頃の実践に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議時に情報をいただき、地区民運動会等、行事がある時に声をかけていただき参加している。	田原振興会、第8区、石山自治会に属し、会員となつて、運動会等の諸行事に参加するほか、自治会員の訪問もあるなど、地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等、色々な行事に地域の方への参加の呼びかけを行い、認知症の人の現状を理解していただくよう努めている。また地域の方々に呼びかけ介護教室を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員に地元の消防団員も参加されているが、夜間想定で行われた避難訓練にも参加して講評を頂き大変参考になった。又、行事の様子を写真で撮影し、運営推進会議で報告させていただき、皆さんの意見を聞き、今後のサービス向上に努めている。	運営推進委員に消防団長もおり、夜間想定避難訓練時に、近隣への連絡など専門的なアドバイスを頂いた。また、他にも活発に意見が出され、それをサービス向上等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題ケースについては市に相談し、解決にむけて話し合い報告している。	奥州市江刺総合事務所の担当課長が運営推進会議メンバーとなっているほか、同課が包括支援センターとなっていることもあり、行政との連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止部会を設置しているが休止状態です。 身体拘束ゼロ宣言をホールに貼って、常に職員の目に留まるようにしている。	事業所内に、身体拘束廃止委員会を設置し、日頃から学習しているほか、宣言書をホールに掲示し、職員への啓発を図っている。玄関は24時間開放しており、利用者が外出する場合は、職員が同行している。利用者1人での外出時は、併設の事業所との連携が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する資料をホーム内に掲示し、理解を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度については、制度があることは理解しているようだが、ホームとしてそれを深めるまで至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約又は改定等の際は家族、利用者とは面談を行い、同意を得たうえでやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様来所時に会話の中で聞くようにしている。玄関に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことができるようにしている。	目安箱は、設置しているがこれまで投函はない。家族来訪時を要望等の聞きとりの機会としている。また、「花だより」により、利用者の様子を家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者・職員のミーティングを随時開催している。	職員が意見を出せる場として、代表者、管理者、職員が参加するミーティングと、職員のみで構成するミニミーティングがある。行事面、特にレクリエーションなどで提案の意見を取り入れた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①36協定の締結や就業規則の見直しを行い、労働条件等の整備を図っている。 ②就業後の資格取得等を積極的に支援し取得後には給与面に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修にも積極的に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や奥州ブロック定例会に参加し交流、情報を得、報告会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定会議後、入居者のご自宅や入院先を訪問し、本人と面談し、心身の状況を把握するよう努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定会議後、入居者のご自宅や入院先を訪問し、家族と面談してニーズを把握できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人並びに家族の意向をケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下ごしらえ、食器拭き、掃除、せんたく物たたみなど、利用者とともにやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、夏祭り等の行事にご案内し家族が足を運んでいただけるようにしている。来所時には管理者又は職員が家族と話し合いの場を作っていますし、遠方の家族には、電話で話し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や年末年始の帰省・行事への参加を呼びかけ、面会を通してつながりを保つことができるように支援しています。馴染みの床屋は2カ月に一度出前で来てくれる。	日常的には、日用品買い出しの同行、年中行事では盆・年末年始の実家への帰省や、地域行事への参加がある。床屋の訪問は、2ヶ月に1回ある。このような形で馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席を工夫し、食事の時は職員も間に入る。レクリエーションの際も、気の合う利用者と隣り合わせに座るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も医療機関や施設等に情報を提供し、サービスの継続が図れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、趣味等を家族と話し合い、本人の希望も聞いたうえで、食器拭きの手伝いやモップがけ等本人の能力も勘案し役割を決めている。	生活歴や趣味、興味などは利用者や家族から情報を得て把握している。以前はセンター方式を使っていた。また、食事手伝い、配膳、下膳、モップかけなど役割分担をし、出来ることをやっていただき意欲等も掻き立てるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での状況を家族から聴取したり、レクリエーション等を通して現状を把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表の中に個人の行動、特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部屋担当制の体制を取っている。ケアプランを主に担当者、計画作成者にて作成し、モニタリングを実施、介護計画書の立案に関しては、職員相互と話し合って立案するように心がける。	居室の担当、ケアマネジャー、管理者でケアプランを作成し、全員で日常的にモニタリングを行い、変化があった際にはプランの変更等に対応し、また定期的に更新・見直しを行っている。変更があれば、家族に「花だより」を用いて詳細に連絡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するにあたり、気づいた事を記入する気づきノートや介護実施記録の特記事項に記入し職員間で共有し、話し合う時間を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスの行事にも参加し交流を深めている。また家族が希望した場合は入居者と一緒に宿泊していただけるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地元消防団員の協力による避難訓練の実施等、外部と交流する機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合っ、協力医療機関を利用している。又、家族の希望で今までの病院の継続もあり。	かかりつけ医への通院の方は、継続的にそれぞれの主治医に通院しているが、その他の利用者は、家族等の意向確認により、協力医療機関に職員同伴で対応している。インフルエンザ等の予防については、協力医療機関にて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置していない事から、管理者が協力医療機関と常時緊急時対応が出来るような連絡体制をとっている。また併設のデイサービスの看護師が対応出来る体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が医療機関に入院した際、介護サマリーを医療機関に提示している。病院を訪問し、状態を確認したうえで関係者等と協議してホームに戻りやすい環境づくりを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に今後の方針を家族の考えについて話し合い希望に沿うようにしている。	重度化や終末期の対応方針はあり、これまで看取りを行ったこともある。入居時に家族の希望を聞き、意向に沿うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを全職員に配布するとともにホーム内での応急手当初期対応について、管理者の指導のもと訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団員や近隣者も含めて実施したことにより、協力体制が徐々に強まってきた。夜間想定訓練も実施した。年2回の避難訓練実施。運営推進委員の消防団や近隣からの参加をいただき実施した。	スプリンクラーや、緊急通報装置などの設置のほか、火元はオール電化としており、設備等は災害に対する対策が出来ている。今後、太陽光発電導入の計画もある。避難訓練も消防団員の指導の下、夜間想定を含め年2回実施している。	避難訓練時における地域の方々との協力関係の構築が重要と考えられることから、現在の関わりを大切に、今後一層、地域へ向けた発信を行い、避難訓練等の地域との協働の充実に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報には特に注意して取り扱っている。声かけについては命令口調や幼児言葉は使用せず、わかりやすい言葉でゆっくりと声かけしている。	プライバシー、個人情報は特に注意して取り扱っている。声掛けなどは命令口調等にならないように配慮し、常に利用者の尊厳を守るよう気配りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を職員からの問いかけによって自分で決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や都合を優先せず、帰宅願望時は寄り添ったり、徘徊の際は見守りしたり等、利用者のペースを優先させるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的に行う者、職員の声かけにて行う者とさまざまだが、整容は毎朝行われている。おしゃれは、一緒に話しながら本人に着替えを決めていただく。理容は2カ月に1回利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望献立を出していただき、利用者と職員と一緒に準備したり、食器拭き、トレー拭きの手伝いをしていただいている。	献立表については、法人の栄養士が利用者の希望を調査し作成している。調理、配膳、片付けを共同で行っているほか、季節の行事、誕生会、お楽しみ献立など、楽しんでいただける食事内容としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食調査や個々の食事・水分の摂取を記録し、法人の栄養士が毎月栄養分析している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング・うがい・義歯清掃を行っているが、義歯に関しては、夜間洗浄剤を使用して水中保存をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握のために、利用者ごとに排泄チェック表をつけ、出来るだけ自分で出来る場所は、手を出さずに自立支援を行っている。	現利用者18名中、自立の方が6名、他の方はリハビリパンツ・パットを使用し対応している。介助を行う場合は、排泄チェック表によりパターンを把握し、さりげない声掛け・誘導に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や音楽に合わせて10分間歩く等、適度な運動と水分確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿って午前中から入浴可能としている。週1回は大きい風呂に入れている。	入浴については、利用者の希望により、午前中から入浴可能である。近所から搬入する温泉は好評である。特に、大きい風呂は、手足を自由に伸ばせる状況となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて居室に限らず、ソファーや畳などで休んでいただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人チャートに綴り、確認をしている。薬を飲ませる時には、夜勤者がセットしたものを毎食一人ひとりの確認表により確認している。病状の変化があれば、かかりつけ医に相談し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の草取り、洗濯物たたみ、食事の準備、後片付け、掃除等入居者の得意とする日々の役割を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、戸外に出て歌を歌ったり、施設の周りを散歩している。ドライブと一緒に行って楽しんでいる。お盆や彼岸は墓参りの為に家族と外出される方もいます。	広大な敷地は、屋外の散歩に適しており、季節ごとの花が咲いており、環境は優れている。施設の車により、花見、紅葉、ポピー畑、つつじ狩りなどに出かけており、レストランでの食事も実施することもある。地域の芸能を敷地内で行い、地域の人たちが多数集まり、交流を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はなく、ご家族から預かってホームが小口現金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の公衆電話を利用されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いスペースが取れているので、レクリエーション活動もゆったりとした状況で行えます。ソファ等も配置し、外の様子が見れるようにしています。天窓もあり風通しのよい状況づくりをしている。	さくら棟、しらゆり棟とも天井が高く天窓から明かりが入り、ゆったりと過ごせる雰囲気がある。特に、さくら棟は、ホール内で運動活動等が出来るほどのスペースがあり、ソファが置いてあったり、輪投げ設備があるなど、余裕のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った利用者や何人かで集まって会話が楽しめる場所、ソファなど、リラックスされる場所など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等持ち込み可能にしている。	全室洋風の個室で広く、窓が大きく明るい。床暖房、エアコンが設置されている。備え付けは畳敷きのベット、壁埋め込み式のタンス、手洗い台、(しらゆり棟は)カラーボックスもある。利用者の持ち込みは自由となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行困難な方は、夜間居室内でポータブルトイレを使用している。トイレ、居室等に大きく名前を表示している。日にちや曜日がわかるようにホール内に表示する等、自立した生活が送れるように工夫している。		